

霊山のふもとに開けた豊かな土地 ~中世の植田・野津原地区~

霊山りょうぜんのふもとを流れる大分川の支流七瀬川ななせがわ沿いに開けた植田地区わさだは、古代の土地区画である条里跡がみられ、摂関家の広大な荘園「植田荘」が置かれるなど、古くから開発が進んだ肥よくな土地でした。そして鎌倉から室町時代にかけてこの一帯を支配した植田氏は、野津原の鷺ヶ城わしがじょうを拠点とし、南北朝時代には守護代を務め大友氏に仕えました。

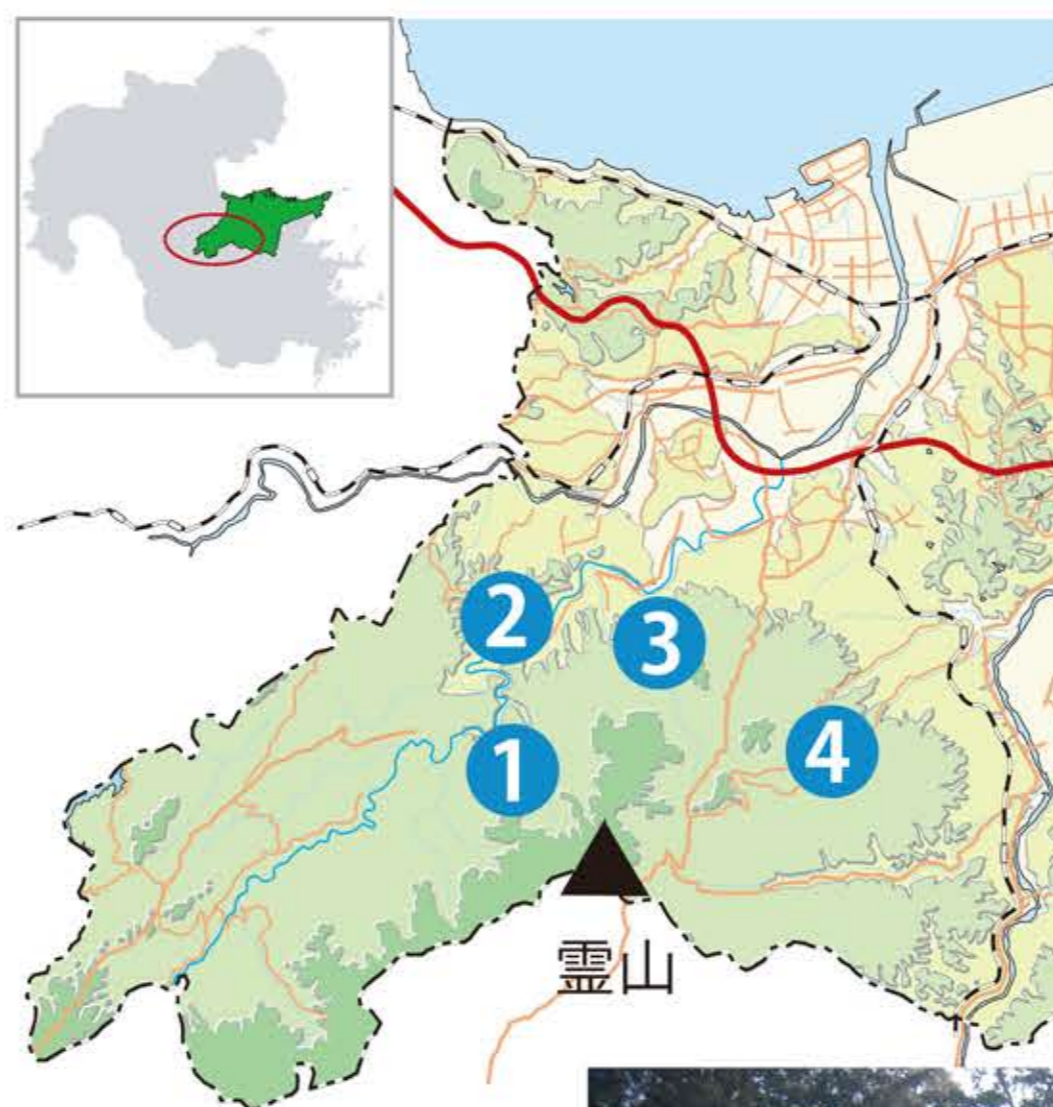
植田氏の居城 鷺ヶ城 (野津原本町①)

鷺ヶ城は、「野津原城絵図」と呼ばれる古絵図によると、主郭(城の中心)に屋敷を構える、「館城」とよばれる山城の特徴を備えていたものと考えられます。現在同地は、上水道施設があるため、城跡の面影はありません。それは、一説に城跡の石垣を、



鷺ヶ城全景(法護寺から)

加藤清正かとうきよまさが法護寺ほうごじ(本町)を建てる際に利用したためともいわれています。



元寇で活躍した頼泰 (岡川③)



大友頼泰の墓(大分市指定文化財)

3代頼泰よりやすは、大友家当主として初めて豊後に入国しました。1274年の元寇げんこうでは、豊後の御家人を従かしのはまえて香椎浜(福岡市)の防備にあ

たり、また鎮西東方奉行(九州全体の武士に対し軍事指揮権などを持つ役職)として、蒙古軍撃退に尽力しました。岡川にある常楽寺は彼の菩提寺とされています。

最後まで義統に仕えた三兄弟 (野津原本町②)

豊臣秀吉により豊後国を没収された22代義統よしむねは、大友家再興を目指し、石垣原いしがきばる(別府市)で黒田官兵衛と戦います(石垣原の合戦)。大友氏に仕えていた永富家ながとみけの3兄弟は、義統に従って戦い、2人は討ち死しました。大友軍の敗戦により、お家再興の夢は消えました。この永富家ぎやくしゅうとう逆修塔は石垣原へ向かう前に、3兄弟



永富家三兄弟の逆修塔

の生前供養(逆修)のために建てられたものです。

大友氏ゆかりの西寒多神社(寒田④)

西寒多神社ささむた じんじやは、平安時代の「延喜式神名帳」えんぎ しきじんみょうちょうにその名前が見える由緒ある神社です。10代当主親世ちかよが本宮山ほんぐうざんから現在地へ神社を移して以来、大友氏と関係が深まってきました。同社には現在、もと大友家庶流の松野家に伝来した大友氏に

関する古文書や宝物が伝わっており、1923年に当時質入れされていたのを地元有志が資金を出して買い取り、神社へ奉納しました。

1966年、火災によって宝物の多くが焼失してしまいましたが、古文書や宗麟が使用したという印章などは焼失を免れ、今日に伝えられています。



西寒多神社社殿